

# 「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里第一小学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「理科」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### (1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A, 理科	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B, 理科
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

### (2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

### (1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語A (知識)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	C
国語B (活用)	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
算数A (知識)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
算数B (活用)	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C
理科 (知識・活用)	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

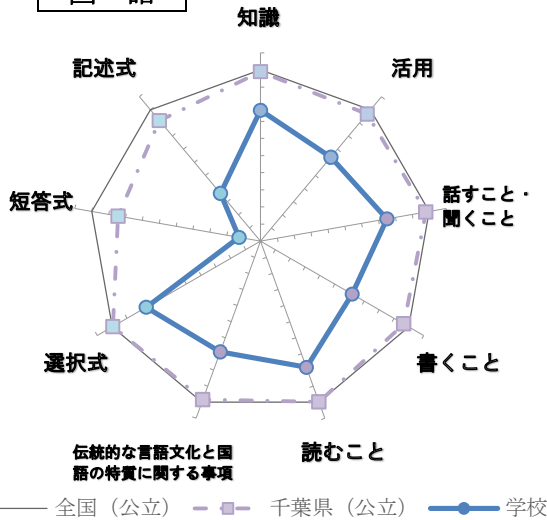
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



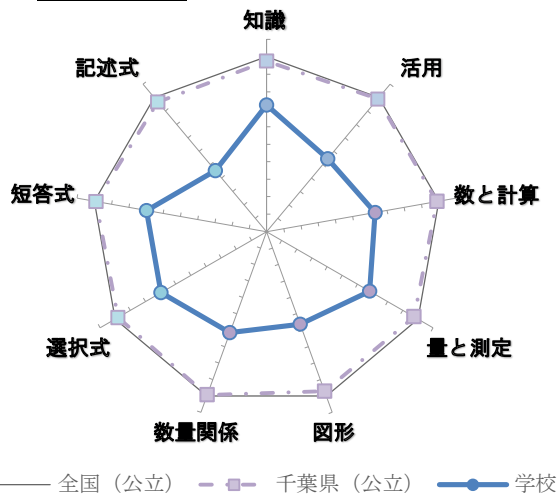
#### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「読むこと」の領域では、他領域と比較して正答率が高く、全国平均に近い結果が得られました。
- 「短答式」の形式においては、正答率が大きく下回っています。
- 目的や自分の意図に応じて、筋道を立てて話したり、文章の構成を考えたりすることに課題があります。
- 文書中の主語と述語の関係などに注意し、文を正しく書くことに課題があります。

#### 【改善方策等】

- 日常生活で使われる言葉の意味について考えたり、主語と述語の関係を考えながら文章を書いたりする活動を積極的に行い、言語についての知識・理解・表現技能の向上を目指します。
- 目的に応じて話し合ったり、聞き手に対して順序を考えて話したりする活動を積極的に取り入れ、「話すこと・聞くこと」の指導を充実させてまいります。
- 日常生活の中で学習した漢字を積極的に活用させることで、漢字の読み書きの定着を図ってまいります。また、漢字検定や小テストなどの実施により、児童の意欲の持続化を図ってまいります。

### 算数



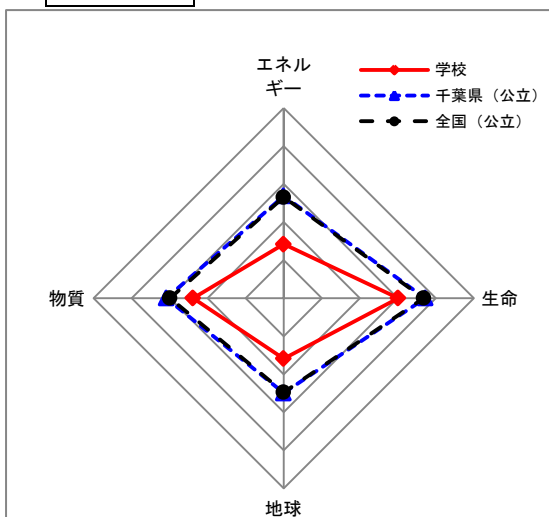
#### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 1に当たる大きさを求める問題場面において、数量の関係を理解し、数直線上に表す問題の正答率が大きく下回っています。
- 「図形」においては、分度器を使って180°よりも大きな角の大きさを求める問題や空間の中にあるものの位置を正しく書く問題に課題がありました。
- 小数の除法の意味についての理解に課題がありました。

#### 【改善方策等】

- 1に当たる大きさを理解するためには、示された数値を実際に数直線上に表しながら考えることが大切です。問題文に示された数値の意味を確認しながら、数直線をつくり、表し、考えて説明するといった活動を積極的に行ってまいります。
- 「図形」においては、分度器やコンパスなどの算数的技能の定着、向上に努めるとともに、具体的な操作活動を積極的に取り入れながら、図形の特徴を理解させたり、空間を認識させたりしてまいります。

## 理科



### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「エネルギー」と「地球」の領域では、正答率が大きく下回っています。
- 「記述式」の形式において、全国平均を大きく下回っています。
- 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題において課題がありました。

### 【改善方策等】

- 自然環境や地球環境などに対して、さらに目を向けさせるとともに、身近な生活との関連を図り、学習意欲や問題意識を高めながら、充実した指導を行ってまいります。
- 検証実験をする際は、「どのような実験すれば、結果から自分の予想が確かめられるのか」といったところまで明確にし、科学的な思考力の向上に努めてまいります。
- 観察したことや実験結果を、自分の言葉で表現する活動を積極的に取り入れ、科学的な表現力の向上に努めてまいります。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析

- ・生活習慣に関する「朝食を毎日食べていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」の問いに対して、どの項目とも80%以上の児童が「している」と回答しています。規則正しい生活を送ることは、学校での活力にもつながり、充実した学習を行うためにも大切なことと考えています。今後も、家庭との連携を図りながら、「早寝早起朝ご飯」の推進に努めてまいります。
- ・「家で学校の宿題をしていますか。」の問いに対して、95%の児童が「している」と回答しています。しかし、その一方で「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」「学校の授業の予習・復習をしていますか。」といった回答に対しては、50%を下回っています。これまでも、家庭学習の習慣化を図る取り組みを行い、一定の成果は得られてきていますが、家庭学習の内容や仕方については個々に様々です。復習や予習を含めて学習に取り組むことや自分の知的好奇心に基づく主体的な学習は、学力の向上に結びつくことは明らかです。今後も、家庭学習の質や量を高めながら積極的に取り組めるよう働きかけ、学習内容の定着を図っていきます。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という問いに対して、100%の児童が「いけない」と回答しており、これまでの学校の取り組みが生きてきています。今後も学校のいじめに対する基本方針をもとに、根絶に向けた取り組みを行っていきます。

- ・「自分にはよいところがあると思いますか。」という問いに対して、70%の児童が「ある」と肯定的な見方をしているものの、残りの30%の児童は自己肯定感を持つことができていないのが現状です。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の問いには、90%以上の児童が「そう感じている」と回答していることから、今後もさらに児童一人一人のよさに目を向けて称賛し、自分のよさに気付かせて伸ばす指導を積極的に行いながら、自信や自己肯定感の高揚に努めてまいります。

### 3 まとめ

児童の学力を向上させるため、上記の【改善方策等】で示した授業を意図的、計画的に行っていきます。また、学習内容の定着を図るために、家庭学習の工夫、改善を図っていきます。また、規則正しい生活習慣が身に付くと、精神的にも安定し、学習面でも成果が表れるという傾向があります。学校でも生活習慣の改善を図るための指導を行っていますが、ご家庭でも『早寝、早起き、朝ご飯』の励行とともに、お子様の生活を見直し、ご協力していただければ幸いです。

児童の学力向上や適切な生活習慣の確立は、学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。